

施政方針説明要旨



3月定例会

令和4年（2022年）2月24日

令和4年3月定例会において、令和3年度補正予算案および令和4年度予算案ならびにこれに関連する諸議案を提出し、ご審議いただくにあたり、私の市政運営に関する所信を申し上げます。

私が市長に就任してからこの間、大阪府北部地震や大型台風などの自然災害をはじめ、私たちの暮らしや経済を一変させた新型コロナウイルス感染症などが相次いで発生しました。これらの危機に対し、市民の命や暮らし、地域の経済を守るため、私は最前線に立って指揮にあたってまいりました。

新型コロナウイルス感染症は約2年にわたり、日々の暮らしへの制限、地域経済への影響など、市民の皆さまの命と健康に大きな影響と不安をもたらしてきました。あらためまして、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々にお悔やみを申し上げるととともに、今なお苦しんでおられる方々には一日も早い回復をお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症については、保健所を中心に全庁一丸となって臨むとともに、市民、事業者、市議会議員の皆さまをはじめ、医療従事者などのエッセンシャルワーカーの皆さまなど多くの方々のご協力とご支援のもと、これまでの度重な

る緊急事態を乗り越えることができました。この場をお借りして、すべての皆さまに対し、心から感謝申し上げます。

私は、「未来につなぐ創る改革～人と地域が活きるまちづくり～」を基本理念に、市民の皆さまとお約束した公約を実現するための基本政策の推進に、全身全霊を傾け取り組んできました。取組みを進めるにあたっては、既成概念や前例にとらわれず、市民ニーズや社会環境の変化を常にとらえながら、変革とチャレンジの精神で臨んでまいりました。

これまでの主な取組みと成果を、基本政策の5つの柱ごとに振り返りますと、まず「教育文化先進都市 とよなか」では、小中一貫教育の推進にむけ、令和5年度開校予定の庄内さくら学園の建設工事に着手するとともに、(仮称)南校の令和8年度開校にむけ準備を進めております。また、小学校3・4年生の35人学級の実現や、児童生徒への一人一台タブレットの導入をはじめとするICTを活用した学び方改革の推進、医療的ケアが必要な児童が在籍する学校への市立豊中病院からの看護師派遣など、子どもたちの学習環境の充実に取り組みました。子育て環境の充実では、4年連続待機児

童ゼロを達成し、子ども医療費助成の対象年齢を18歳まで拡大しました。さらに、文化芸術振興については、小中学生を対象とした日本センチュリー交響楽団のオーケストラ鑑賞や、まちめぐりによるアートの祭典など子どもの豊かな感性を育む事業を実施しました。

「まちづくり先進都市 とよなか」については、南部地域の活性化にむけて、地域の皆さまとの意見交換を重ねながら、南部地域活性化基本計画を策定するとともに、学校跡地に関する個別活用計画の策定と民間事業者へのサウンディング調査を行いました。駅周辺のにぎわいづくりでは、豊中駅周辺再整備構想の策定や服部天神駅前広場整備などに取り組みました。また、自転車通行空間ネットワーク計画の策定やシェアサイクルの実証実験、新たな交通システムとしてデマンド型乗り合いタクシーの導入や、東西バス路線の開通など、公共交通機関の充実や良好な住環境の整備に取り組みました。

「安全安心・健康先進都市 とよなか」については、強靱化地域計画に基づく取組みをはじめ、総合ハザードマップの作成や防災公園の整備など災害への備えを充実させました。ま

た、「豊中市安心つながり宣言」を表明し、コロナ禍においても人とのつながりの大切さを伝えるとともに、地域共生センター西館の整備など、地域共生社会への取組みを進めました。健康医療については、けんしんの個別化・無料化をはじめ、ソーシャル・インパクト・ボンドを活用した禁煙事業の実施や健康および安全のための総合的なたばこ施策の推進に関する条例を施行しました。環境対策では、地球温暖化防止対策などの推進を約束する「世界首長誓約／日本」へ署名するとともに、ゼロカーボンシティの実現に向け、吹田市と共同で気候非常事態宣言を表明しました。また、隣接する西宮市、尼崎市、吹田市、豊中市の4つの中核市NATSによる地球温暖化に関する基本協定を締結するなど、気候変動対策に取り組みました。

「魅力活力先進都市 とよなか」については、本市で3人目となる名誉市民にB'zの松本孝弘氏を選定するとともに、ストリートピアノプロジェクトや高校野球100回大会記念事業などを通じて、まちの魅力を創造し、広く市民の皆さまに発信しました。また、市制施行85周年記念事業として、85年のあゆみを写真で振り返るパネル展の開催などに取り組

ました。来月には85周年記念事業の締めくくりとして久石讓氏と日本センチュリー交響楽団による特別公演を開催します。産業振興施策では、地域産業の活性化にむけた起業・創業支援をはじめ、企業立地促進条例を改正し産業誘導区域の設定などに取り組みました。さらに地域経済再生支援プログラムを策定し事業活動の下支えとコロナ後の新たな社会に対応できる環境づくりに取り組みました。

「市民サービス先進都市 とよなか」については、経営者や有識者を交えた経営戦略会議を設置し、多角的な視点から議論するとともに、経営戦略方針に基づき戦略的に都市経営を進めてまいりました。また、デジタル・ガバメント宣言を表明し、来庁を必要としない行政手続きのオンライン化など市民サービスの向上とともに、オンライン会議やテレワークシステムの導入などICTを活用した働き方の見直しに取り組みました。さらに、中期財政計画を策定し、行財政運営の健全化を進めてまいりました。公民学連携では、アイデアや意見を出し合い、実践するためのプラットフォームを立ち上げるとともに、有識者によるパネルディスカッションの開催や地域課題の解決などに取り組みました。女性の活躍推進では、

特別職・管理職への積極的女性登用をはじめ、キャリアアップ支援や昇格基準の見直し、男性職員の育児休業取得の促進に取り組みました。SDGsについては、SDGs未来都市に選定されるとともに、まちづくり政策コンテストやパートナー登録制度など、市民・事業者とともに取り組んできました。

以上が基本政策における主な取組みと成果で、進捗率としては、4年間を通して、98%となる見込みです。こうした施策を推進してきた結果、人口については、令和2年実施の国勢調査では30年ぶりに40万人を超えました。また、令和3年度に実施した市民意識調査では、コロナ禍ではありましたが本市に住み続けたいと思う割合をはじめ、子育て、保健医療体制、住環境など、ほぼすべての項目において前回調査より良い評価をいただきました。さらに、民間機関が実施している各種住みたいまちランキングにおいても、本市は常に上位を占めるなど、市内外の方々から高い評価をいただいております。引き続き、若い世代が将来に希望を持てるような環境づくりや誰もが安全に安心して暮らすことができるまちづくりを進め、多くの方々に選んでもらえるまち“とよ

なか”をめざしてまいります。

令和4年度予算については、市民の暮らしに大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症対策を最優先に取り組むとともに、本市の明るい未来のために、市長改選期ではありますが、いま必要な施策は速やかに実施する予算編成としました。

予算編成方針として、市民の皆さまに寄り添い、コロナ後の未来へと歩みを進めるため、市民起点の発想で施策を創造し、変革をとおして財源創出することを基本にしながら、次の3つの重点項目を柱にすえ取組みを進めてまいります。

1つめは、「子どもたちの未来のために」です。小学校高学年での教科担任制の導入や庄内さくら学園の建設をはじめ、中学校全員給食の実施、ICTの活用や学習支援員の配置による学習環境の充実、相談体制の充実、児童相談所設置にむけた準備など、未来を担う子どもたちの学びと健やかな育ちを支援します。

2つめは、「コロナを乗り越え、その先に」です。心と体の健康づくりをはじめ、感染症予防・拡大防止策、就労支援、経済対策など、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市民生活への支援や地域経済の再生にむけて取り組みます。また、令和5年2月

に開設予定の南部コラボセンターを拠点とした地域コミュニティのさらなる活性化を進めます。

3つめは、「暮らしを便利・快適に」です。オンライン申請やキャッシュレス決済の拡充をはじめ、電子書籍貸出サービスの実施やオンライン講座など、暮らしや学びといったあらゆる場面での利便性・快適性の向上に取り組みます。

市政の運営にあたっては、平和主義、民主主義、基本的人権の尊重という憲法の理念や自治基本条例の原則にのっとり、柔軟な発想と行動力、都市経営の視点をもって力強く進めてまいります。

以上の施策を含めた令和4年度の予算規模としましては、

一 般 会 計	1, 7 0 3 億	1 7 3 万	円
特 別 会 計	8 8 5 億	7, 3 8 1 万 9 千	円
病 院 事 業 会 計	2 4 6 億	3, 3 1 5 万 8 千	円
水 道 事 業 会 計	1 2 4 億	2, 4 4 9 万 7 千	円
公 共 下 水 道 事 業 会 計	2 1 2 億	1, 0 5 0 万 5 千	円
合 計	3, 1 7 1 億	4, 3 7 0 万 9 千	円

で、前年度予算と比べまして、全会計では4.7%増、一般会

計では7.0%増となっております。

それでは、基本政策の5つの柱にそって、主な内容につきまして、順次ご説明を申し上げます。

〔教育文化先進都市 とよなか〕

まず、「教育文化先進都市 とよなか」です。

子どもの権利を守り、迅速かつ的確に支援が行えるよう、府内中核市では初となる児童相談所の令和7年4月の開設に向け準備を進めます。また、児童虐待や発達に関する早期の予防的支援を強化するため、子どもに関する情報を一元的に把握するシステムを構築します。

ヤングケアラーの支援については、専用相談窓口を設置し、適切に支援につなぐとともに、認知度向上の取組みを進めます。

子どもの居場所を充実させるため相談支援拠点を開設し、地域の支援力向上や関係機関との連携を強化します。

子育てに対する不安等を軽減するため、保護者と一緒に家事・育児を行う支援員派遣事業の対象者を拡大します。

ひとり親家庭に対しては、自立支援給付金の給付額を拡充するとともに、養育費を確保するための弁護士費用の一部を補助します。

また、今後の保育ニーズを見据え、待機児童ゼロを維持するため、引き続き民間保育所整備や保育士確保などに取り組みます。

学校教育については、児童生徒の学力向上や支援の充実のため、小学校5、6年生の教科担任制の導入をはじめ、外国人英語指導助手（AET）の拡充やICT支援員を全小中学校に配置します。また、障害児介助員を増員するとともに、スクールソーシャルワーカーを全小学校に配置します。

コロナ禍における学びを支援するため、就学援助世帯に一時金を支給するとともに、奨学金を受給している大学生等に給付金を支給します。また、子どもたちが希望をもてる先駆的で特色のある学校の取組みを支援します。

子どもたちの身体面の成長を支えるため、中学校全員給食を2学期より開始し、栄養バランスのとれた温かい給食を提供します。

生徒のスポーツ・文化活動を充実させるため、部活動指導員を新たに配置するとともに、協力者を増員します。

地域と一体となった特色ある学校づくりを進めるため、コミュニティ・スクールを小中学校4校でモデル実施します。

魅力ある学校づくりについては、庄内さくら学園における義務教育9年間の学年区切り4・3・2制を系統立てた教育カリキュラムを作成します。また、特色ある教育として、演劇ワー

クシヨツプやミュージカルワークシヨツプを取り入れた授業を先行して実施するとともに、プログラミング教育の教材を開発します。

(仮称)南校については、令和8年の開校に向けて、基本設計等に着手します。

放課後等の児童の居場所づくりの充実のため、現在10校で実施中の校庭開放を三季休業期間にも実施するとともに、全小学校において夏季休業日のプール開放を実施します。

また、子どもの基礎体力の向上をめざし、小学生を対象に、大学と連携した子どもスポーツ塾をモデル実施します。

生涯学習については、新たに郷土資料館を現在の庄内少年文化館跡に設置するとともに、名勝西山氏庭園の保存修理を実施します。

青少年健全育成機能の充実のため、青年の家いぶきと少年文化館を統合します。

図書館については、中央図書館の候補地選定に向けて引き続き検討を進めます。また、7月から電子書籍貸出サービスを実施します。

公民館では、放課後や土日を活用した自宅学習を支援するモデル事業を中学校3校の生徒を対象に行います。

文化芸術については、音楽月間10周年記念事業として、小学校の吹奏楽部と日本センチュリー交響楽団との共同演奏会などを実施します。

ローズ文化ホールについては、特定天井や座席、舞台設備などの改修設計を実施します。

体育施設については、豊中ローズ球場の改修工事設計をはじめ、庄内体育館空調設置工事等の設計、および柴原体育館特定天井改修工事を実施します。

〔まちづくり先進都市 とよなか〕

次に、「まちづくり先進都市 とよなか」です。

公共交通の利用促進に向けて、好評をいただいている豊中東西線のバスダイヤ改正や乗合タクシーの運行改善などの取り組みを進めるとともに、新たに転入された市民にバスのお試し乗車券を配布します。

安全で快適な移動空間を創出するため、歩道改良によるバリ

アフリー化と自転車通行空間の整備に取り組みます。また、安心して外出ができるよう、施設等のバリアフリー情報をわかりやすく発信します。

南部地域については、出張所や図書館をはじめ、市民活動支援や子育て支援などを一体化した、地域の拠点施設となる南部コラボセンターを令和5年2月に開設します。また、同センター北側にある公園を一体的に再整備します。

跡地となる学校敷地については、まちの魅力向上やにぎわいの拠点づくりに向け事業者公募の手続きを進めます。

南部地域の災害対策としては、都市計画道路曾根島江線や主要生活道路の整備を進めるとともに、庄内・豊南町地区の防災性を更に向上させるため、木造住宅等除却費補助制度を拡充します。

また、神崎川駅周辺の浸水対策と地域の活性化のため、関係機関と協議を行い、基本計画の策定に向け取組みを進めます。

千里中央地区については、「千里中央地区活性化基本計画」に基づき、東町中央ゾーンの区画整理事業に向け取組みを進めるとともに、北新田橋の西側に新設する歩路橋の設計を行います。

また、千里中央公園をより魅力ある公園とするために、公民連携によるイベントの実施や飲食店舗の整備、運営を行います。

豊中駅周辺については、魅力ある都市拠点の形成をめざし、再整備構想の実現に向けて地元協議を進めます。

服部天神駅周辺については、駅前広場整備に向けて、取組みを進めます。

大阪国際空港については、環境対策の徹底などを引き続き関係機関に働きかけてまいります。また、原田緩衝緑地や千里川土手の整備に向け取組みを進めます。

上下水道事業については、効率的な事業運営のもと、計画的に施設の改築更新・長寿命化・浸水対策等を進めます。また、都市間連携の一環として柿ノ木配水場を吹田市と共同化し、運用を開始します。

〔安全安心・健康先進都市 とよなか〕

次に、「安全安心・健康先進都市 とよなか」です。

地域包括ケアシステムをさらに推進するために、昨年4月に開館した地域共生センター西館に続き、東館を整備します。

健康寿命延伸のため、通所訪問型短期集中サービスの拠点を増やすとともに、利用者のサービス終了後も継続して支援します。

また、ICTを活用して、地域の通いの場の新規立ち上げや、フレイル予防の取組みを強化します。

新型コロナウイルス感染症の拡大に備え、介護老人福祉施設等のサービス継続および介護サービス事業所の人材確保を支援します。

高齢福祉・介護予防については、「第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の策定に向け、健康とくらしの調査および地域分析を行います。

また、認知症の相談体制を強化するとともに高齢者を対象とした新たな見守りシステムの実証実験を行います。

障害福祉については、一人で通学が困難な障害のある児童・生徒を支援するため、通学支援サービスを新設します。また、

障害に関する相談体制を強化するため、日常生活圏域ごとに基幹相談支援センターを配置します。

就労継続支援B型事業所等を支援するため、商品の開発や販路拡大等にかかる経費を新たに補助します。

新型コロナワクチン接種については、3回目接種を推進するとともに、5歳から11歳を対象とした接種を来月から実施します。

また、コロナ後遺症に悩んでいる人をはじめ、フレイルや認知症の予防が必要な人を支援するために新たに課を設置します。

保健医療については、市民が主体的に健康の維持増進に取り組めるよう、健康・医療・福祉等の情報を発信するデジタルサイネージを設置した「健康情報拠点薬局」を増やします。

また、骨髄バンクドナーとなった方が骨髄等を提供しやすい環境づくりを進めるため、助成金制度を創設します。さらに、がん治療と就労等の社会参加の両立および経済的負担軽減のため、ウィッグや補整具購入の一部を助成します。

妊娠を望むカップルに対しては、不妊治療等の保険診療の自己負担分について費用の一部を助成します。また、医師等による不妊症・不育症に関する相談支援を実施します。さらに、妊産婦の支援については、産後ケア事業を拡充するとともに、歯科健康診査を無料とします。

病院事業については、消化器内科・外科の連携による消化器センターを設置し、より充実した診療に繋がります。また、4人用の病室を一部個室化仕様とするなど、入院患者の療養環境の向上とともに、最新のMRI装置を導入し、安全で質の高い医療の提供に努めます。

新型コロナウイルス感染症については、引き続き、患者の受入れを行い、感染症指定医療機関としての役割を果たします。

危機管理については、令和3年度に作成した総合ハザードマップの点訳版・音訳版を作成します。

また、災害発生時に自ら避難することが難しい高齢者や障害のある人を対象とする個別避難計画を作成するため、地域住民やケアマネジャーなどと連携したモデル事業を実施します。

気候変動への対応としては、河川監視を強化するために、旧猪名川に監視カメラを設置し、防災体制の準備や避難情報の発令等に活用します。

救急・消防については、119番通報時に、より適切で有効な口頭指導を行うために、映像による現場確認ができるシステムを導入します。また、近隣5市での共同消防指令システムの令和6年度の共用開始に向け、準備を進めます。

住宅施策については、公民連携手法による市営西谷住宅建替事業を行うため、敷地測量調査等を実施します。

また、市内の分譲マンション管理の適正化のため、マンション管理計画認定制度を開始するほか、新たに管理組合向けアドバイザー派遣支援やマンション購入者向けガイドブックの作成等を行います。

環境施策については、総合的な取組みを進めていくために、「第3次豊中市環境基本計画」を見直します。

また、脱炭素社会への取組みについては、再生可能エネルギー導入促進に向けて、電力を地域で循環する「電力の地産地消

事業」の仕組みを構築するとともに、太陽光発電などの設置に対する補助金を拡充します。

さらに、「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画」の見直しを行い、温室効果ガスの削減やCO₂排出量と吸収量の均衡を図るカーボンオフセット事業を隠岐の島町と実施します。

「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」および「ごみ減量計画」を見直し、循環型社会の構築に向けて、廃棄物の適正な処理とごみの減量に取り組みます。

コロナ禍での就労を支援するため、就職活動を行う人にスーツなどの貸出を引き続き実施するとともに、緊急雇用支援金の対象者を拡大します。また、自分にあった働き方が選択できるよう、新たな求職者向けセミナーの実施やフリーランスの支援などに取り組みます。

男女共同参画については、女性活躍や多様な働き方を推進するため、事業所にアドバイザーを派遣します。

人権平和センター豊中では、市の平和・戦争に関する所蔵品

を用いて展示内容を充実させるとともに、戦争体験等の映像記録の作成を進めます。

〔魅力活力先進都市 とよなか〕

次に、「魅力活力先進都市 とよなか」です。

これまで取組みを進めてきた音楽月間については、10周年記念事業をとおして音楽あふれるまちとよなかを市内外に発信します。また、本市の魅力を盛り込んだ紹介冊子をリニューアルするとともに、民間企業や大学等との連携による魅力発信や地域課題の解決など、公民学連携を活かした新たなまちの活力向上に引き続き取り組めます。

産業振興については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域経済を下支えするため、豊中商工会議所と連携し、小規模事業者のIT機器導入や商品価値を高める取組みならびに新たな事業にチャレンジするための設備投資に対する補助制度を創設します。

また、市内の消費喚起策としては、デジタルを活用したお買い物キャンペーンを実施するとともに、市が実施する事業の参加者に対して、デジタル地域ポイントを付与する仕組みを構築

します。

農業振興については、豊中市で作られた農産物の活用や、農業体験、地域コミュニティとの連携など、農地の多面的機能を活かした取組みを進めます。

〔市民サービス先進都市 とよなか〕

最後に、「市民サービス先進都市 とよなか」です。

社会環境の変化に対応し、第4次総合計画に掲げるまちの将来像「明日がもっと楽しみなまち」を実現するため、「後期基本計画」を策定します。

デジタル・ガバメントの推進については、市民の皆さまが利便性・快適性をより一層実感できるよう、移行可能な行政手続きをすべてオンライン化するとともに、LINEを活用したサービスやスマホ講座の拡充などデジタル活用を支援する取組みを進めます。

また、住民情報システムの標準化やネットワークの再編によるデジタル基盤の再構築のほか、データ利活用の推進や電子契約の導入など、デジタルを活用し市役所業務の変革をさらに進

めます。

あわせて、これまでの取組みを総括し、デジタル社会に対応する新たな戦略を策定します。

広報誌については、フルカラーや文字の拡大、2次元コードの活用など、より読みやすく、必要な情報が探しやすくなるよう、4月号からリニューアルします。

人材戦略については、職員採用専用サイトを立ち上げ、採用広報を充実するとともに、民間企業等との人材交流や専門人材の活用を進めます。

また、コロナ対応をはじめ、市政課題に迅速かつ的確に対応するため、業務執行体制を強化します。

さらに、新型コロナにより就労に影響を受けた方の働く機会を確保するため、引き続き会計年度任用職員の緊急雇用を行います。

以上、極めて概括的ではありますが、基本政策にそって内容を説明させていただきました。

本日、ご提案いたしました予算案およびその他の諸議案につきましては、関係職員から詳細をご説明申し上げますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。

この機会をお借りして、次期市長選挙に対する私の思いと決意の一端を述べさせていただきます。

私は、平成30年5月に豊中市長に就任して以来、市民の皆さまとお約束した公約実現に向け、全身全霊を傾け取り組んでまいりました。この間、大規模自然災害や新型コロナ感染症など、市政を取り巻く環境は大変厳しいものがございましたが、本市が誇る「市民力」「地域力」を活かしながら、私の基本理念である創る改革を実践できました。これも、市民の皆さまや市議会の皆さまのご支援とご協力のたまものであり、心よりお礼申し上げます。

この間、本市初となる義務教育学校「庄内さくら学園」の着工をはじめ、35人学級の推進や東西バス路線・シェアサイクルなど交通網の整備、デジタル化の推進など、様々な分野で新たな取組みを展開することができました。また、財政面では、大阪府北部地震や新型コロナの対策で大変厳しい状況ではありましたが、決算推移では、経常収支比率の改善や市債残高の削減、積立基金残高の増加など、財務指標を改善することができました。こうした取組みにより、市民意識調

査では、ほぼすべての項目で満足度が向上するなど、高い評価を得ることができました。

1期目の任期満了を目前に控え、これまでの取組みをさらに確実なものへと発展させ、「子どもたちの笑顔あふれる未来のために」「大好きな豊中の未来のために」そして「みんなの笑顔のために」、元気いっぱいの豊中市をつくりたい、という思いを強くしているところです。また、新型コロナについては、戦いは終わっていません。これまでに得た知見や経験を活かして、引き続き、市民の命や暮らし、地域経済を守っていくために、粉骨砕身の覚悟で取り組んでまいります。

つきましては、「未来につなぐまちづくり」の実現に向け、本年4月の市長選挙において、今一度、厳正な審判を仰ぐことを決意いたしました。

議員の皆さま方には、この間のご支援に深く感謝を申し上げますとともに、40万人市民の先頭に立ち、責任をもって市民の皆さまのより一層の幸せと暮らしの向上を実現することをお誓い申し上げます。豊中市長選挙立候補に際しましての決意表明とさせていただきます。